

令和8年度（令和7年度完了）優良工事・業務表彰

知事表彰

浜田県土整備事務所



知事・所長等	知 事	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	(主) 桜江金城線 (市山A工区) 総合交付金 (改築) 工事 第4期			
部門	土木部門	工種	道路	受注者名	今井産業 (株)	監理技術者	錦織 敦司	



知事・所長等	知 事	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	(主) 浜田美都線 (弥栄地区) 防安交付金 (災害防除) 工事 その1			
部門	土木部門	工種	道路	受注者名	(株) 島根三友	主任技術者	山田 和志	



工事名 山形県庁舎内 山形県庁舎内工事
 工事種 山形県庁舎内工事
 測点
 施工完了



工事名 山形県庁舎内 山形県庁舎内工事
 工事種 山形県庁舎内工事
 測点
 完成全景
 起点～終点

知事・所長等	知事	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	(一) 三次江津線外 県単災害復旧工事		
部門	土木部門	工種	道路	受注者名	イワミテクノ (株)	主任技術者	柿尾 匠



知事・所長等	知 事	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	令和6年度 緊急予防治山事業 高橋地区 山腹工事その2		
部門	農林水産部門	工種	森林土木	受注者名	今井産業(株)	主任技術者	西田 和史

1. 業務概要

これを受けて、島根県では治水対策について検討し、土地利用一体型水防災事業を活用した宅地嵩上げ等による治水対策を最適案として選定し、「江の川水系下流支川域河川整備計画(第3回変更)」として令和6年3月に認可を受けた。

- ・ 履行期間：自) 令和 7 年 8 月 21 日 至) 令和 8 年 3 月 25 日
- ・ 業務場所：鳥根県津江市松川町 地内
- ・ 業務項目：各種要領作成 (3 種類)
- ・ 受注者：株式会社大隆設計

2. 業務内容

本業務では、計画に関連する法規・基準、関係機関との協議結果をふまえ、3つの要領を作成した。



本業務で作成した要領の概要

	①宅地嵩上げ対策の設計要領	②島根県と所有者の間の事務手続きに関する要領	③所有者が実施する事務手続きに関する要領	
概要	全15か所の宅地嵩上げを統一した考え方で設計するための要領をまとめたもの	島根県と所有者の間の契約に関する事項と様式を定めたもの	所有者が事業の理解を深め、事務手続きを円滑に進められるように解説したもの	
記載項目	・第1編 基本方針編 ・第2編 調査編 ・第3編 設計編 ・第4編 数量計算編 ・第5編 工事工程表編	・宅地嵩上げ実施要領 ・各種書類の様式	・第1編 手続きの内容整理 ・第2編 各種法令への対応 ・第3編 税金等 ・第4編 参考資料	
作成要領の抜粋	実施方針	実施要領	様式一覧	手続きの流れ
	思き家工法の選定フロー	調査同意書	契約書(案)	所得税の試算例

3. 業務において工夫した点

要領作成においては、法規との整合性、関係機関協議の決定事項に関する漏れがないか、誤字等がないかなど、各種チェックが最も重要であると考え、次の5つの取り組みを行い品質確保に努めた。

①IS09001 品質管理システム

と赤黄チェック

PDCA サイクルにより、品質管理、進捗管理、各段階での赤黄チェックを確実に行った。

②第三者によるチェック

社内の第三者による客観的な視点で
チェックを行い、質の向上を図った。

③関係機関との協議内容のリスト化

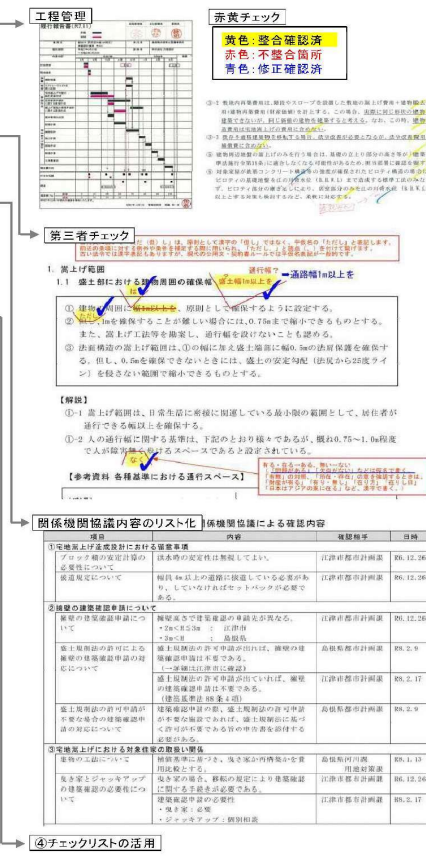
各種要領作成にあたり、関係機関との協議内容をリスト化してまとめ、決定内容の整理及び記載漏れ防止に努めた。

④チェックリストの活用

本業務では、成果品の品質確保のため、島根県の「詳細設計照査要領」を参考に社内独自に作成した①「基本条件」、②「業務実施」、③「成果品」の3つのチェックリストを活用し、品質確保に努めた。

⑤社内検査

- ・ 工程に影響を及ぼす主要な段階で、品質管理部による中間検査（社内検討会）を実施した。
- ・ 中間検査（社内検討会）では、業務状況、設計方針、次工程への移行の確認を行うとともに、業務実施上の課題を共有、対応を検討し、問題が懸念される場合は直ちに社内全体として体制の拡充を図るなどの対応を行い、品質確保に努めた。
- ・ 報告書の完成後に品質管理部による最終検査を受け、合格した内容で納品した。

[illegible]

令和8年度（令和7年度完了）優良工事表彰

所長表彰

浜田県土整備事務所



知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	(主) 田所国府線 (上府工区) 総合交付金 (改築) 工事 第3期		
部門	土木部門	工種	道路	受注者名	(株) サンクラフト	主任技術者	稲田 和也



知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	国道186号(小国1工区)防安交付金(改築)工事	第3期
部門	土木部門	工種	道路	受注者名	(株)毛利組	主任技術者 柳山 博



知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	(主) 浜田八重可部線 (今福工区) 県単舗装整備工事			
部門	土木部門	工種	道路	受注者名	(有) 丸久建設	主任技術者	佐々木 一繁	



知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	(一) 川平停車場線（後地工区）交通安全補助 第6期工事（補正）		
部門	土木部門	工種	道路	受注者名	江津土建（株）	主任技術者	佐々木 亮



知事・所長等	所 長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	(一) 三隅井野長浜線 (井野工区) 総合交付金 (改築) 工事 第2期 (補正)			
部門	土木部門	工種	道路	受注者名	(有) 大谷建設	主任技術者	大谷 泰一郎	



知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	(主) 浜田八重可部線 (都川2工区) 総合交付金 (改築) 工事 第3期 (補正)		
部門	土木部門	工種	道路	受注者名	(有) 藤澤産業		



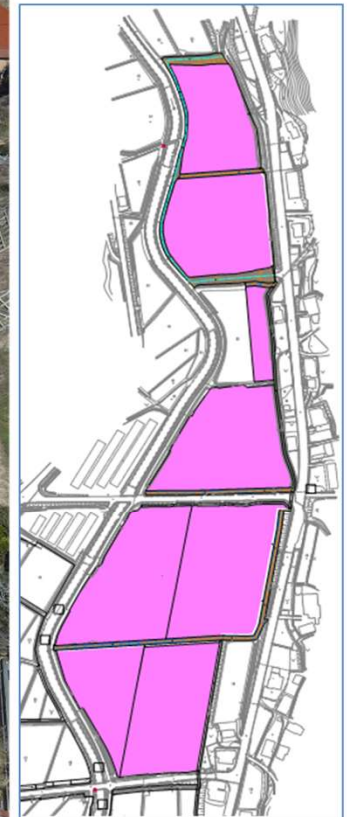
知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	八戸川 県単河川災害関連工事 第7期		
部門	土木部門	工種	河川	受注者名	今井産業（株）	監理技術者	日野 直樹



知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	本郷川 防安交付金（通常砂防）工事 第4期			
部門	土木部門	工種	砂防	受注者名	（株）サンクラフト	監理技術者	古屋 雄一	



知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	西旗竿谷川 防安交付金（通常砂防）工事 第2期（補正）		
部門	土木部門	工種	砂防	受注者名	宮田建設工業（株）		



知事・所長等	所 長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	令和6年度 農地中間管理機構関連農地整備事業 杵束地区 区画整理（その3）工事
部門	農林水産部門	工種	農業土木	受注者名	第一建設工業（株）
				主任技術者	田城 仁文



知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	令和6年度 農村地域防災減災事業 横山地区 4号道路工事
部門	農林水産部門	工種	農業土木	受注者名	三浦商事（有）
					監理技術者 金高 昌司



知事・所長等	所長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	令和7年度 農村地域防災減災事業	新開佐野地区	法面保護工事
部門	農林水産部門	工種	農業土木	受注者名	イワミテクノ（株）	主任技術者	山下 和学



知事・所長等	所 長	事務所名	浜田県土整備事務所	工事名	令和6年度 緊急予防治山事業 谷地区 山腹工事
部門	農林水産部門	工種	森林土木	受注者名	イワミテクノ（株）
					主任技術者 河野 暢之

1. 業務概要

本業務は、第 1 次緊急輸送道路である国道 261 号（太田工区）において、過年度の設計業務で用地取得が困難であった民有地（対策箇所）が新たに取得可能となったことから、通行規制期間の短縮化とコスト削減を目的として、既存の法面修繕工法の見直し設計を行うものである。

- 業務場所：江津市松川町太田 地内（図 1 参照）
- 履行期間：R7.6/12～R7.10/31（R7.9/8 納品）
- 実施内容：現地踏査、工法検討、鉄筋挿入工併用吹付法枠工、洗掘防止工、関係機関協議（国交省）、仮設計画
- 計画条件：非出水期までの工事完成（河川区域内）
道路片側の通行確保（施工時）



図 1 業務位置図

2. 変状と業務経緯

平成 30 年 11 月に実施された構造物点検において、太田工区のブロック積基礎直下で侵食が確認され、植生土のうによる応急対策が実施された。

その後、令和 3 年 6～8 月の現地調査において、路面の亀裂・沈下、壁面の隙間やたわみが確認され、さらに下流側でも基礎直下の侵食が認められた。これを受けて、侵食部には植生ネットによる応急対策が実施されている。その後、防安交付金による法面修繕工事の事業化が決定し、令和 3 年 12 月に地質調査（図 2 参照）、翌年 4 月に詳細設計業務が発注された。

詳細設計に先立つ用地基礎調査では、公園混入地域であることが判明し、用地取得が困難と評価されたため、直壁による地山補強工法を採用し、用地上の問題を回避した。

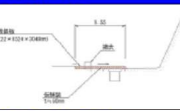
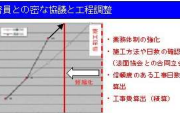
しかし、採用した地山補強工法は、特殊工法であるほか小規模補正や建設資材高騰の影響もあって工事費が高み、さらに緊急輸送道路を長期的に規制する必要もあったことから、事業の着手が難航した。

このような状況から発注者において対策工の見直しが検討され始め、関係者との調整等の結果、成果納品から 2 年が経過した令和 7 年に河川区域内の用地取得が可能となり、今回の修正設計業務に至っている。

3. 業務遂行における問題点と対応

本業務を遂行するにあたり、計画上的問題点に対して表 3 のように対応した。

表 3 計画上的問題点と対応

計画上的問題点	対応	計画上の問題点	対応
【①測量内における地形データの取得】 ・修正設計に伴い、既往測量と現在の地形情報の差が生じた。 ・新たに横断測量を実施すればよいが、測量期間が狭まり、施工管理が困難になるほか、 <u>今年度完工を目標とした法面修繕工事の計画に支障をきたす（設計作業の遅延）。</u>	既存三次元点群データの活用（機軸ゲージ取得） 	【④既設水路上に仮設道路を設置】 ・ラフタークレーンの設置に伴い歩道側に道路を切通す計画であるが、歩道側には既設水路が設置されているため、 <u>自動車通行による破壊や変形が懸念される。</u>	仮設路上に敷設橋を設置 
【②出水期までの本体工事完成】 ・河川区域内の本体工事は假設を念めて <u>出水期（6/15）までに完成させる必要がある。</u> ・第二期工事が決定されると防護柵や舗装工事では既設ブロック積の閉鎖を除去する必要があるが、第一期施工の法面対策工に影響を及ぼす。	第二期工事を見込んだ洗掘対策工の配置計画 	【⑤工事完了支援】 ・本工区は出水期（6/15）までの完成が求められており、さらに今年度内の工事完了を目的としているため、 <u>所定の業務工期（10 月末）では工事が間に合わない。</u>	監督員との密な協議と工程調整 

4. 一般構造物詳細設計

(1) 工法検討

過年度の検討条件に今回の条件を加えたものを選定条件として整理し、現況河積を確保するとともに既設ブロック積擁壁に影響を掛けないよう複合工法を 3 工種選定した（表 4 参照）。

その結果、過年度の他案に比べておおそ 70 日の通行規制短縮が図れ、さらに特殊工法を採用している他案に比べて直接工事費 1,300 万前後の削減が期待できる、第 1 案「吹付法枠・鉄筋挿入工+洗掘防止工（布製型枠）」を本工区の対策工に決定した。

表 4 比較検討表

第 1 案【新規】 吹付法枠・鉄筋挿入工+洗掘防止工(布製型枠)	第 2 案【過年度】 (上段)吹付法枠・鉄筋挿入工+(下段)地山補強土工	第 3 案【過年度】 (上段)吹付法枠・鉄筋挿入工+(下段)地山補強土工
		
概算施工日数：164 日（規制日数：75 日） 直接工事費：31,116,294 円（1.00）	概算施工日数：246 日（規制日数：141 日） 直接工事費：43,183,594 円（1.39）	概算施工日数：250 日（規制日数：145 日） 直接工事費：44,898,849 円（1.44）

(2) 鉄筋挿入工併用吹付法枠工

対策範囲は躯体に見られる変状の端部を基本とし、鉄筋挿入工は A・B ブロックの代表断面を用いて「円弧すべり」により検討ケースを「常時」と「残留水位時（HWL）」としたうえで、補強材の径や長さを決定した。また、削孔径はルーズな盛土に配置することから D=90mm とし、グラウトの流出防止対策としてバクラーを使用することとした。

なお、保護キャップは流水の阻害とならないように低圧型を採用し、併せて補強材の余長を最小限に留めた。

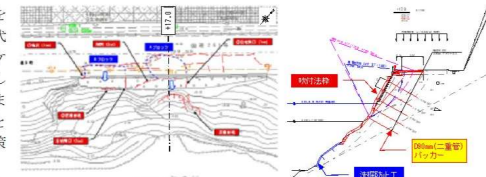


図 4.1 対策範囲平面図および安定検討結果図（A ブロック：N0.0-17）

(3) 洗掘防止工

吹付法枠下方の斜面は出水期に浸水するため、洗掘防止対策として江の川でのも施工実績を有する布製型枠を採用した。布製型枠のタイプは、最新の河川断面を利用して流速（最大流速：Vmax=5.5m/s）を求め、注入材をモルタルとする厚さ 150mm のノンフィルターマット（図 4.2 参照）を選定した。

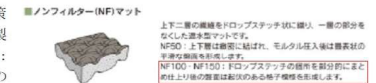


図 4.2 布製型枠（NF150）

5. 事業に対する効果について

太田工区における法面修繕工事の工事工程表（案）は表 5 のとおりである。

業務については、「業務体制の強化」および「監督員との密な連携」を図ることにより、業務工期を 54 日間短縮し、成果品を納品した。

これにより、出水期（6 月 14 日）までに河川区域内の工事を完成させることが可能となった。

表 5 工事工程表（案）

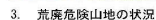
工名	単価	数量	作業期間	作業内容	備考
法面修繕工事（仮設）	4,000	1,000	6/15～6/30	法面修繕工事（仮設）	
洗掘防止工（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	洗掘防止工（仮設）	
鉄筋挿入工（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	鉄筋挿入工（仮設）	
吹付法枠（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	吹付法枠（仮設）	
地山補強工（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	地山補強工（仮設）	
仮設道路（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	仮設道路（仮設）	
仮設橋（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	仮設橋（仮設）	
仮設柵（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	仮設柵（仮設）	
仮設照明（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	仮設照明（仮設）	
仮設排水（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	仮設排水（仮設）	
仮設防犯（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	仮設防犯（仮設）	
仮設その他（仮設）	1,000	1,000	6/15～6/30	仮設その他（仮設）	
仮設合計	10,000	10,000	6/15～6/30	仮設合計	

・・・河川区域内作業

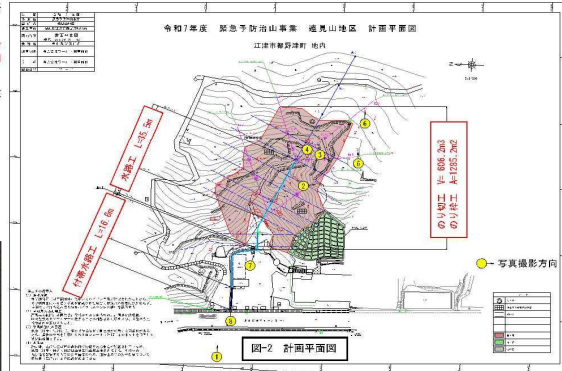
4. 計函概要

本業務は、遠見山地区において、上記目的を達成するために山腹工の測量及び詳細設計を実施したものである。

(1) 業務名：令和7年度 緊急予防治山事業 遠見山地区 測量設計業務
(2) 業務場所：島根県津江市都野津町地内（図-1参照）
(3) 履行機関：令和7年5月22日～令和8年1月30日



- ・斜面には多数の表層崩壊が発生し、斜面動が活発である。(写真-2)
- ・段差地形は遷急線に沿って形成され、凹部から表流水の浸透が促進されている。(写真-3)
- ・崩壊土塊が谷部に残存し、末端部が侵食を受け、斜面安定性が著しく低下している。(写真-4)



計画地の地形条件により一般的な掘削機械による施工はできないため、以下の方法が考えられた。

- ① セーフティークライマー工法
- ② 人力掘削

計画掘削土量が6000m³を超えることから、人力掘削による施工は非現実的である。よって、表4-1に示すように、経済性及び施工性に優れたセーフティークライマー工法を選定した。

掘削方法：セーフティークライマー工法

	○ 直接捌制	△ 間接捌制
公認度	第3次調査（直接調査）による 正確調査	間接に調査するから 正確に調査できない
第3次調査	必要	不要
調査方法	調査員が直接 調査、マイコン記録装置	第3次調査員が マイコン記録装置
記録装置	マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン）	マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン）
コスト	マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン）	マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン） マイコン記録装置 （マイコン）



現地調査結果より、計画地は谷地形であることから、降雨時には集水機能により表流水及び地下水が集中流下すると推察された。さらに、左岸側にはパイピング跡が複数確認されたが、これらは、緩斜面により地下への浸透水が増え、既存の地下水量が増大した結果と推察された。

結果として、図-4に示す円弧すべりが想定された。(崩壊の長さ $L=7.8\text{m}\sim 8.0\text{m}$ 崩壊の深さ $L=0.9\text{m}$)

上記の対策工法として、表4-2に示すように、吹付法枠工、簡易吹付け法枠工及びノンフレーム工法による比較検討を行い、吹付法枠工を選定した。

对策工法：吹付法棒工

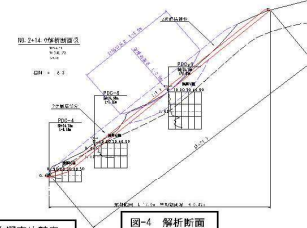
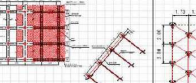


表4-2 工法2次選定比較表

	第1章 設計技術	第2章 建築設備設計の基礎知識とNEC設備標準(2)	第3章 設備のシミュレーションとNEC設備標準(3)
工学概要	設計技術の概要と設計プロセスの重要性について説明する。設計プロセスの各段階（企画・設計・施工・維持管理）の役割と関係性を図解する。 	建築設備の概要と設計の基礎知識について説明する。建築設備の種類（空調、給排水、電気設備等）とその役割を説明する。 	設備のシミュレーションの概要と設計の基礎知識について説明する。シミュレーションの種類（エネルギー、環境、構造等）とその役割を説明する。 
建築概要	建築概要の概要と設計の基礎知識について説明する。建築概要の種類（住宅、商業施設、公共施設等）とその役割を説明する。 	建築概要の概要と設計の基礎知識について説明する。建築概要の種類（住宅、商業施設、公共施設等）とその役割を説明する。 	設備のシミュレーションの概要と設計の基礎知識について説明する。シミュレーションの種類（エネルギー、環境、構造等）とその役割を説明する。 
構造概要	構造概要の概要と設計の基礎知識について説明する。構造概要の種類（住宅、商業施設、公共施設等）とその役割を説明する。 	構造概要の概要と設計の基礎知識について説明する。構造概要の種類（住宅、商業施設、公共施設等）とその役割を説明する。 	設備のシミュレーションの概要と設計の基礎知識について説明する。シミュレーションの種類（エネルギー、環境、構造等）とその役割を説明する。 
電気概要	電気概要の概要と設計の基礎知識について説明する。電気概要の種類（住宅、商業施設、公共施設等）とその役割を説明する。 	電気概要の概要と設計の基礎知識について説明する。電気概要の種類（住宅、商業施設、公共施設等）とその役割を説明する。 	設備のシミュレーションの概要と設計の基礎知識について説明する。シミュレーションの種類（エネルギー、環境、構造等）とその役割を説明する。 
設備概要	設備概要の概要と設計の基礎知識について説明する。設備概要の種類（住宅、商業施設、公共施設等）とその役割を説明する。 	設備概要の概要と設計の基礎知識について説明する。設備概要の種類（住宅、商業施設、公共施設等）とその役割を説明する。 	設備のシミュレーションの概要と設計の基礎知識について説明する。シミュレーションの種類（エネルギー、環境、構造等）とその役割を説明する。 

法枠工を含む山腹斜面を流下する雨水の集水及び既設水路までの導水を目的に水路工を計画した。

- 集水の必要性
- バッキング現象への対応及び集水地形であることから、斜面の雨水を速やかに排除する必要があった。
- 導水の必要性
- 斜面下端には水路施設がないことから集水された雨水が宅地に滞留する。したがって、既設水路までの区間に設置した水路を設ける必要があった。
- 採用した水路
- 集水：法沖水路・高密度ポリエチレン半円管
- 導水：ベンチリュウム

